

第5回全国マナーキッズ®フォーラム 2012 報告書要旨

講演 中村桂子（JT生命誌研究館館長）
テーマ「いのちはつながりの中に」



私たち人間は生きものです。こんなことあたりまえ、いまさら言われなくてもわかって
いると思われるでしょう。

でも、生きものってなんだろうと改めて考えてみるとこれはなかなか難しいものです。
ここでは、「生れるもの」というところに注目します。機械はだれかがつくるものですが、
生きものはつくれません。生きものは生きものからしか生まれません。皆んな両親がいたか
ら生れてきたのです。では両親は？こうやってたどっていくと生きものの始まりにもどり
ます。38億年も昔のことです。

実は地球上の生きものは皆、祖先をたどっていくと同じところに戻ります。つまり、生
きものは皆38億年という長い歴史を持つ、お互いにつながった仲間だということです。

ここから考え始めると私たちは皆長い時間のつながりの中にあり、今ここでお互いがつながっていることがわかります。「つながっている」。これが生きものの特徴と言ってもよいでしょう。

どんなつながりがあるか、もしつながりがなくなったらどうなるか・・・皆でつながりの大切さを考えていきたいと思います。

平成 23 年度マナーキッズ標語・作文・ポスターコンクール表彰式
コンクール講評 山本 浩(法政大学スポーツ健康学部教授、元NHKアナウンサー、解説副委員長)



今回のコンクールに、標語の部門では 328 点、作文には 269 点、そしてポスター部門には 17 点の応募がありました。標語の部で金賞を取った金森優河さんの作品は、4 つのフレーズをひとつにまとめた意外性と、ドアをたたくようなリズムが目を引きました。作文の部の島添恵衣さんは疑問を解決するためのやりとりを生き生きと表現していたのが特徴です。ポスター部門では、久多見駿くんがゴリラの様なお兄さんをポイントに電車の中を動物園に見立ててユーモアを忘れずに描いてくれました。

応募のあった作品の多くが優劣をつけがたいもので、賞を決めるのもすんなりとはいきませんでした。審査員の方々の票が割れたこともご報告しておきたいと思います。

今の時代、情報のやりとりが生活の中で大切な役割を果たしています。相手の情報をし

っかり受け取れるか、相手に自分の情報をきちんと伝えられるか。その意味で、あいさつは情報交換の第一歩ですし、礼儀正しいことは相手が情報をきちんと受け取れるような態勢作りでもあるのです。あるべき情報のやりとりをするためにどうしたらいいかを、皆さんはどこかで感じ、知らず知らずのうちにも表現してくれたように思います。あいさつやマナーの意味を、情報のやりとりという角度から考えて家族で話し合う機会を一度持ってみてはいかがでしょうか。

受賞者による1分間スピーチ



標語金賞 金森優河（品川区立小山小学校2年）

今回の標語は、父と一緒に考えました。母からもヒントを出してもらったので考えやすかったです。何故、あいさつに関する標語にしたかという、私が通っている小山小学校では、あいさつ当番という活動があります。それは、当番の人が朝、校門の前に立って、来た友達にあいさつするという活動です。私は、あいさつ当番が好きで、クラスにもあいさつを大事にするという目標があるからです。これからも、あいさつを大切にしたいです。

作文賞金賞 島添恵衣（品川区立大間窪小学校4年）

今日、このような賞を頂いてありがとうございました。私は4年生の時にマナーキッズテニス教室を学びました。その際、あいさつの大事さを勉強しました。また、目上の方への接し方も勉強しました。作文を書いて、マナーについて振り返ることができました。受賞した作文に書いたように、席をゆづったり、どんな人に対しても敬意をもって接したいです。

4月から高学年になりますが、誰に対してもお手本になれるようあいさつしたいです。

ポスター金賞 久多見 駿（品川区立旗台小学校3年）

何故、電車の中でゴリラのようなポスターを書いたかという、よく電車の中で大きな声でおしゃべりしている人や走ったりしている中学生を何人も見かけたからです。自分もやっているかもしれないので、こらからも気をつけて、電車の中でルールとマナーを守り、人に迷惑をかけないよう心がけたいです。

祝電披露

第5回「全国マナーキッズフォーラム2012」のご盛会をお慶び申し上げます。
皆様のご活動は、私達のご先祖様より大切に受け継いできました正直・親切・勤勉・親孝行を重んじる精神であり、日本人の美しい心の実践であります。
マナーキッズプロジェクトの今後益々のご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

参議院議員 山谷えり子

主催者挨拶 田中日出男（認定NPO法人マナーキッズプロジェクト理事長）



皆さんこんにちは。「第5回全国マナーキッズフォーラム2012」にご参加頂きまして、まことにありがとうございます。

昨年の第4回は、3月11日の東日本大震災により延期せざるをえない状況になりました。東日本大震災によって、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

マナーキッズプロジェクトは、文部科学省東日本大震災子どもの学び支援ポータルサイトに登録し、宮城県被災地の避難所、仮設住宅、小学校においてマナーキッズテニス教室を展開しました。ダンロップ様、住友ゴム様から人口芝ショートテニスコートをご提供頂き、仮設住宅に寄付しました。ショートテニスで「体」を動かして頂き、また近くの小学校に指導に行っており「精神」を動かすことを目指しております。平成24年度は岩手県、福島県においても開催するべく準備中です。

只今から第2回マナーキッズ標語・作文・ポスターコンクールの表彰式を開催しますが、本年度のテーマは「ルールとマナーです。審査委員長法政大学教授の山本 浩様から講評頂きますが、山本様ご助言により、NPO法人を設立したわけで心よりお礼申し上げます。

次に、J T生命誌館館長の中村桂子様「いのちはつながりの中に」と題してご講演を頂きます。著名な生命科学者ですが、教育面においても小学生に農業体験の重要性を指摘されておられ、福島県喜多方の小学校が実践しているとお聞きしております。非常に示唆のあるお話が聞けるものと期待しております。

体験の重要性につきましては、一昨年の第3回フォーラムにおきまして、若月秀夫品川区教育委員会教育長が、今の日本の教育現場は観念的で体験を通じて学ばせる機会が少なくと指摘されておられました。平成22年度に全国で初めてマナーキッズを市民科授業に予算化して頂きました品川区において、今までに約8,000人の幼稚園、小学生、中学生が参加しました。平成24年度中に10,000人に達する見込みです。浜川小学校からは、「規律正しい児童は学力も大きく向上する」という事例報告がされております。

品川区に続いて北九州市が予算化しましたが、福岡支部が公益財団法人笹川スポーツ財団よりSSFスポーツアワード2010に選定されました。スポーツを通じて子ども達が礼節を学ぶ事業であり、民間と行政との連携により導き出された先駆的な取り組みであることが選定理由です。小学校他授業は30都道府県194小学校で、行政予算化は、北九州市、北海道恵庭市、高知県佐川町他に波及しております。また、ロータリークラブ他のご支援も全国12都道府県40に達しております。

昨年のトピックスは、小笠原流礼法鈴木万亀子総師範著書「お母さんのための子どものしつけとマナー」という本を出版されたことです。一人でも多くのお母さんに聞いて頂くために、幼稚園・保育園向けのマナーキッズ親子でのひらテニス教室を展開することにしました。

本日は特別協賛の三菱東京UFJ銀行様はじめ協賛・賛助の企業からご来場頂いておりますが、37企業、団体からご協賛、賛助を頂いており心よりお礼申し上げます。

最後になりますが、ご後援頂いております文部科学省、東京都教育委員会、品川区教育委員会、公益財団法人日本体育協会、本日の会場をご提供頂きました品川区立小中一貫校日野学園に心よりお礼申しあげ、開会のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

閉会挨拶

永井順國 政策研究大学院大学客員教授

総合司会 杉山佳子（元NHKアナウンサー、NTTユーザー協会講師）

13:00～14:30

マナーキッズテニス教室小学校授業風景見学

小笠原流礼法鈴木万亀子総師範保護者向け「家庭内の躾」講話を含む